

令和2年度行政事業レビューシート（金融庁）

事業名	金融分野におけるサイバーセキュリティ対策向上			担当部局庁	総合政策局		作成責任者			
事業開始年度	平成27年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	リスク分析総括課		石村 幸三			
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	サイバーセキュリティ基本法 第14条 (「国は、重要社会基盤事業者等におけるサイバーセ キュリティに関し、基準の策定、演習及び訓練、情報の 共有その他の自主的な取組の促進その他の必要な施 策を講ずるものとする。」)			関係する 計画、通知等	「金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に向けた取組 方針」(平成30年10月19日改訂)					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	金融分野におけるサイバーセキュリティ対策の向上による、金融システム全体の安定性の確保。									
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	○サイバー攻撃を受けた際の金融機関内・金融業界内のサイバー攻撃への対応態勢及び官民の連携体制の確認等を目的に、「金融業界横断的なサイ バーセキュリティ演習」を実施。 ○諸外国におけるサイバーセキュリティへの取り組みについて幅広く調査し、当庁や国内金融機関のサイバーセキュリティ対策強化に向けた取組みの参考 となる情報を得ることを目的に、「諸外国の金融分野のサイバーセキュリティへの取り組み」に関する委託調査を実施。									
実施方法	直接実施、委託・請負									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求			
	予算 の状 況	当初予算	65	65	75	76	91			
		補正予算	▲0.2	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	▲2	-	-	-				
	計		62.8	65	75	76	91			
	執行額		39	44	68					
	執行率(%)		62%	68%	91%					
	当初予算+補正予算に対す る執行額の割合(%)		60%	68%	91%					
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	諸謝金		68	75	○委託調査費及びサイバー演習経費等の要求増(諸謝金+7百万 円、金融政策業務旅費+8百万円) (参考) 「新型コロナウイルス対策関連要望額」:91百万円					
	金融政策業務旅費		5	13						
	委員手当		2	2						
	金融政策業務庁費		1	1						
	情報処理業務庁費		0.2	0.1						
	その他		▲0.2	▲0.1						
	計		76	91						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2 年度	目標最終年度 - 年度
	金融業界横断的なサイ バーセキュリティ演習への 金融機関の参加数を過去 の成果実績を踏まえ100社 以上とする。		演習に参加した金融機関 数	成果実績	社	101	105	121	-	-
				目標値	社	80	80	100	100	-
				達成度	%	126	131	121	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	担当課室の集計結果									
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習の実施件 数			活動実績	件数	1	1	1	-	-
				当初見込み	件数	1	1	1	1	1
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	金融機関に求めるべきサイバーセキュリティ対策や各国 の先進的取組み状況調査の実施件数			活動実績	件数	1	1	1	-	-
				当初見込み	件数	1	1	1	1	1

単位当たりコスト		算出根拠			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込				
		執行額／演習参加金融機関数		単位当たりコスト	百万円	0.2	0.2	0.4					
				計算式	百万円/社	22/101	26/105	50/121					
単位当たりコスト		算出根拠			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込				
		執行額／調査件数		単位当たりコスト	百万円	9.9	9.9	11.6					
				計算式	百万円/件	9.9/1	9.9/1	11.6/1					
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	-										
		施策	横断的施策-1 IT 技術の進展等の環境変化を踏まえた戦略的な対応										
		測定指標	定量的指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標	目標年度		
										-	年度	-	年度
			金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習の参加金融機関数		実績値	社	101	105	121	-	-		
		目標値			社	80	80	100	-	-			
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係												
	サイバーセキュリティ演習を通じて金融業界横断的なインシデント対応能力の向上を図ることで、IT技術の進展等によるサイバーリスクの高まりに対応する												
	新経済・財政再生計画改革工程表 2019	取組事項	分野:	-									
		(第一階層)	KPI (第一階層)			単位	計画開始時	元年度	2年度	中間目標	目標最終年度		
							-	年度			-	年度	
			-		成果実績	-	-	-	-	-	-		
					目標値	-	-	-	-	-	-		
		-		達成度	%	-	-	-	-	-			
KPI (第二階層)					単位	計画開始時	元年度	2年度	中間目標	目標最終年度			
				-	年度			-	年度				
-		成果実績	-	-	-	-	-	-					
		目標値	-	-	-	-	-	-					
-		達成度	%	-	-	-	-	-					
		本事業の成果と取組事項・KPIとの関係											
-													

事業所管部局による点検・改善				
	項 目		評 価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	金融業界横断的なサイバーセキュリティ対策向上を目的としており、社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	当局も含めた金融業界横断的な事業であり、国が行うべきと考える。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	平成26年11月に制定された「サイバーセキュリティ基本法第14条※」に規定されているなど、優先度の高い事業である。 ※具体的な条項は上記「根拠法令」記載参照
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	・令和元年度における金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習及び外部委託調査については、公告期間を十分に確保するなど、入札情報について積極的な情報提供を行い、競争性の確保に努めたものの、結果一者応札となった(複数者が調達内容に関心を示し、参考見積りの提出や入札説明会への参加があった。)。 ・競争性の無い随意契約となったものについては、多くの金融機関が参加する合同演習であり、金融に特化した演習内容であるため、他に同役務の提供を行っているものはおらず、競争性の余地がないものである。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習については、参加金融機関に応分の負担を求めている(演習実施にかかる費用負担の割合は、金融庁55%程度、参加金融機関45%程度)。 なお、サイバーセキュリティ強化に向けた取組に係る考え方として、個別金融機関自身が取組む「自助」、当局を含めた公的セクターによる「公助」、各金融機関同士による「共助」の3つの考え方があり、本演習は、「自助」と「公助」を合わせて実施し、当局・参加金融機関それぞれに得られるメリットがあるとの観点からも、得られるメリットに応じた負担割合としている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	入札を行う等、コストの削減を図っている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	真に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習については、参加金融機関に応分の負担を求めることにより、コスト削減を図っている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	毎年成果目標を達成しており、成果実績は見合ったものとなっていると考える。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	当庁職員自らが演習の実施や海外における先進的な取組みを調査する場合と比較して、専門業者の専門知識やノウハウを活用した「委託・請負」が、より効果的かつ低コストで実施できるものとする。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	毎年、サイバーセキュリティ演習及び委託調査を行っており、見込みに見合ったものとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	・委託調査の成果物は、金融分野におけるサイバーセキュリティ対策の強化のため、広く对外公表している。 ・金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習については、参加金融機関や各業界に対して事後評価結果をフィードバックすることにより、金融機関自らが具体的な改善策を講じられるようにすることとしている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	
	所管府省名	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	○金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習については、参加金融機関数が例年成果目標を上回る実績(28年度:20(目標)→77(実績)、29年度:80→101、30年度:80→105、令和元年度:100→121)と推移しており、目標を達成している。令和2年度(目標:100)においても、参加金融機関数が目標を上回るよう調整している。 ○委託調査等経費については、金融機関に求めるべき対策や各国における先進的な取組みを調査し、広く对外公表するとともに、国内金融機関の取組みを促すため、様々な場において調査結果を説明している。また、一般競争入札により競争性を確保しており、予算は適切に執行されていると考える。		
	改善の方向性	○過去4回の演習を通じて一定の知見が蓄積したことから、演習運営の要件をより精緻に調達仕様書にも反映させたり、演習方式を一部変更する等、更に効果的・効率的な演習を実施する。また、公正性・公平性の観点を確保しつつ、入札の可能な供給者の参加を促すため、演習の目的・実施内容等に関する事前の打合せを行い、競争参加者の発掘に努めている。 ○委託調査については、日々高度化・複雑化するサイバーの最新の脅威や海外における先進的な取組等について調査を行い、その結果を還元することで、国内金融機関の取組みの強化を促す。		
外部有識者の所見				
(外部有識者点検対象外)				

行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	一者応募となった契約については、競争性を確保するための方策について検討するなど、引き続き予算執行における経費削減に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	本経費については、競争性の確保のため、公告期間の十分な確保や積極的な情報提供に努める。 効率的な予算執行の観点から、今後コスト削減に努めていくこととするが、東京オリンピック・パラリンピックが2021年に延期されたことに加え、コロナ禍への対応として、金融機関においてテレワークや各種サービスのオンライン化・リモート化が加速しており、サイバー攻撃の脅威は一層高まっていることから、3年度においては、前年比15百万円の増額となる予算要求を行っていく。					
備考						
[令和元年度]「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習（Delta Wall IV）」について https://www.fsa.go.jp/news/r1/sonota/20191002/20191002-cyber.html						
[令和元年度]「諸外国の金融分野のサイバーセキュリティへの取り組み」に関する報告書の公表について https://www.fsa.go.jp/common/about/research/XXXX						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成26年度	-	平成27年度	新28-1	平成28年度	3	
平成30年度	0016					
平成31年度	金融庁（0016）					
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)	※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。					
	金融庁 68.08百万円 ○うち事務費 ・職員旅費 6.3百万円 ・委員手当 0.5百万円					
	【随意契約(企画競争)】				【随意契約(少額)】	
	A. (株)エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 49.5百万円				C. 一般社団法人 金融ISAC 0.03百万円	
	・「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」の企画・運営業務等				・サイバーセキュリティに関する知見の向上を目的とした外部研修等に係る受講料	
費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A. (株)エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所		B. (株)エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	金額 (百万円)	
	業務経費	演習企画・運営業務に関する費用	49.5	業務経費	調査業務等に関する費用	11.5
	計		49.5	計		11.5
	C. 一般社団法人 金融ISAC			D. (株)NTTドコモ		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	金額 (百万円)	
		※100万円未満			※100万円未満	
計		0	計		0	

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)エヌ・ティ・ティ・ データ経営研究所	1010001143390	演習企画・運営業務	49.5	随意契約 (企画競争)	1	—	—

B

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)エヌ・ティ・ティ・ データ経営研究所	1010001143390	調査業務等	11.5	一般競争契約 (総合評価)	1	—	—

C

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	一般社団法人 金融 ISAC	7010005022809	外部研修等の受講	0	随意契約 (少額)	—	—	—

D

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)NTTドコモ	1010001067912	サイバーセキュリティ関係 情報収集業務	0	随意契約 (その他)	—	—	—